



冷害再來苦の農村 政府救済資に悩む

知事から訴へられた惨状に 共に思案投げ首の現状

縣下町村長會各郡支會會長は此の程福島市に開催本年重ねて見舞はれたる稲作の冷害に關し救済策の協議を行ひ種米補充、土木その他の救済事業計畫、國有新炭材拂下げ、種穀の準備、冬期の副業、醫療救護、免租出願の外十數項に亘る案を練つたが昨年の凶作被害に痛傷を受けてゐる瘡痍未だ癒えぬものに再び襲はれた同被害対策に手も足も出ない町村少ながら知事宛左記陳情書を提出したので知事から政府に對し機嫌を訴へてゐるが政府も打續く救済資源に悩んでゐると

鎌田山開鑿着工 國道直線化實現

總工費七萬圓を投じ 明年度内に完成豫定

總工費七十九萬圓の巨費を以つて着工以來豫定通りの進捗を見てゐる夏井川の大改修工事は延々數里に亘る沿岸赤井、平窪、好間、平、神谷、飯野、草野の十ヶ町村多年の泥濘に悩まされて来た水災から永遠に救はれるものとして地方民から待望されてゐたものだけに完成の一日も速ならんことを期待されてゐるが該工事の附帯事業として市制實現途上にある平町の都市計畫案と併行の鎌田山を開鑿平町木町通りから神谷村大字盤に通ずる直線路開鑿工事は愈々明年一年度までに完成の豫定で着工に決定した即ち現在鎌田山より上流約二百米のテ所常磐線鎌田橋梁と平行して鐵筋コンクリートのモダン

暴風雨で倒れた 豊間信號柱の復舊

漁業組合長と大敷網の盡力で 高六十六尺の大柱を完成

石城郡豊間村に建つ氣象特報並に暴風警報の信號柱が過般の暴風雨に於て倒壊され一般漁民から非常な不便を訴へられてゐたが縣費を以て建設さるべき筈の同費に乏しく復舊抄々しくないので困つてゐたが遠藤豐間漁業組合長の盡力と酒井同地大敷網經營主の援助によつて去る十五日見事に完成した同信號柱の高さは實に六十六尺に達する縣下稀に見る長大にして而かも理想的なものとなり豊間港内に入する漁船の便は云ふまでもなく同沖合を航行する船舶の爲めにも従來に比して遥かにまさる裨益の大なるを喜ばれてゐる

平町に於ける 國調人口

若干減少する
平町に於ける今十月一日の國勢調査による結果は昨年の現在数に比して若干の減少を示し發展途上の同町として不可思議な實數と云はれてゐるが同町は地元工業が少くない關係

Table with 4 columns: 日、月、日、時、分、秒. It lists various times and dates.

組指許可制示談

縣救済平支所では組指業者の許可制を施行されるに當り之れが示談會を來る二十三日午前十時から平町團休事務所に郡農會その他發動機組指を發む當業を合して新制についての打合せをなすと

果實の出荷協議 地方産果實の向上

郡農會努力の効顯著し
石城郡農會では多年の努力酬る爲め來る二十二日午前十時は本縣より撰拔された平野特高主任長澤警部補は受託のため今十九日午前十時四十分發列車で上京した

交通安全デーに 小學生が街道進出

來る廿八、九の二日間 宣傳その他行事決定

あるが大休左の如く決定した
交通安全デー行事
第一日(二十八日)
△事故防止宣傳：管内自動車業者を始め交通營業者を召集して交通安全の實を揚ぐ

郷土史抄

- 一 菊浦草稿(一名近世壯烈誌)
- 一 菊浦漫筆(卷四、時事文集)
- 一 菊浦近稿(紀行及詩)
- 一 名家詩集(無題、假名)
- 一 隨筆(無題假名)
- 一 清川八郎關係書(前同)
- 一 清川正明述懐詩並序
- 一 稱謂私言

Table titled '小名濱測候所' (Onomahara Observation Station) showing weather data for various dates. Columns include 最高温度 (Maximum Temp), 最低温度 (Minimum Temp), 平均温度 (Average Temp).

長澤主任出京

内務省の警察官短期講習會に本縣より撰拔された平野特高主任長澤警部補は受託のため今十九日午前十時四十分發列車で上京した

四倉の蘭相場

四倉蘭市場に於ける昨十八日の取引は出荷僅かに七十六圓で相場は左記の如くであつた
最高六十九圓四錢 最低六一圓九錢 平均六六圓一〇錢

故濟先生の 遺影を偲ぶ

(瀧川家の史料採訪)
鮫川 漁史

- 一 瀧川濟雜詩集(無題假名)
- 一 櫻軒散史漫鈔(辭句集)
- 一 常陽黨大記板(杏庵主人集、未定稿)
- 一 浪華遺古文(三家文抄)
- 一 瀧竹堂先生大鈔後
- 一 救儀奇策序
- 一 近世史料(雜文)
- 一 本書ノ全部ハ不詳、但シ未定稿ナラン
- 一 汲深齋雜言(隨筆)
- 一 菊浦詩鈔
- 一 菊水詩草
- 一 史料文庫(卷二、一名諸家文粹、裏表、行狀傳並論序)

